

第 22 回茅野市新地域公共交通検討会議

開催日時	令和 5 年 1 月 17 日（火） 午後 6 時 30 分から午後 7 時 30 分		
開催場所	茅野市役所 8 階大ホール		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	2 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
事務局	<p>第 22 回茅野市新地域公共交通検討会議を開催。詳細は下記のとおりです。</p> <p>1 開会 皆様こんばんは。一日のお疲れのあと、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>定刻となりましたので、只今から、第 22 回茅野市新地域公共交通検討会議を開催いたします。</p> <p>本会議は、新型コロナウイルスの感染防止対策をしたうえで、スムーズな進行に努めさせていただきますので、ご理解ご協力をお願いいたします。</p> <p>はじめに、会長挨拶、篠原会長お願いします。</p>		
会長	<p>2 会長あいさつ</p> <p>皆さんこんばんは。改めまして新年あけましておめでとうございます。皆様にとってこの 1 年が素晴らしい年になることをご祈念申し上げます。のらぎあについて、自宅から少し出ると、必ず見かけるようになりました。多くの方に利用いただいて誇らしい気持ちになると同時に頑張れよという気持ちになります。これからはシステムの見直しを行っていくと同時にこれまで行くことができなかった観光地等への移動の手段について、三井の森の山田さんを中心に検討しているところであると事務局から伺っております。また、福祉 21 の関係では高木先生を中心に尽力いただいております。今後は、そういった分野に加え、運行事業者の皆様についても社員教育をしていただいて、ドライバーさんの皆様についてもお客様が気持ちよく乗っていただけるようなサービス提供をお願いできればと思います。皆さんでもっと工夫と知恵を注いでいただきたいと思います。引き続きよろしく願いいたします。</p>		
事務局	<p>ありがとうございました。議事に入る前に、3 名の新しい委員の方について紹介させていただきます。地域住民代表としまして、玉川地区コミュニティ運協副会長の 大月年廣様、湖東地区区長会会長の 宮坂英治様、学識経験者ということで 公立諏訪東京理科大学 共通・マネジメント教育センター教授の 飯田洋市様でございます。よろしく願いいたします。それでは、3 の報告事項等に入ります。</p> <p>まず、次第に基づきましてご説明をさせていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>(1) AI 乗合オンデマンド交通「のらぎあ」の運行について ① 運行状況等について</p>		

	<p>②別荘地・観光地の公共交通について</p> <p>(2) 通学通勤バスの運行について</p> <p>①LPWA を活用した車両位置表示の実証実験について</p> <p>②運行状況について</p> <p>(3) 高齢者割引の年齢設定及び中学生割引について</p>
<p>会長</p>	<p>3 報告事項等 AI 乗合オンデマンド交通「のらざあ」の運行状況について説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>説明に入る前に当該会議資料が当日配布になってしまいました。次回以降は事前配布を行っていきたいと思います。よろしく願いいたします。資料 1 及び別紙 1 に基づき説明。8 月 22 日から直近の 1 月 13 日までの利用状況等について説明。</p> <p>登録者数 6545 人ということで 1 か月前と比較して、おおよそ 1000 人の登録が増えました。予約件数については、15286 件、利用者数 16916 人であったことに加え、年齢別登録者数、日別利用者数、時間帯別利用者数、利用者流動について説明。どの数値についても 1 か月前と比べておおよそ 2 倍の増加となっていると説明。なかでも 50 代の方の利用が増えてきている。これについては、通勤に使っていただいているケースも見受けられると説明。高齢者の方の利用はサービス開始から常に多い状況であり、利用者も順調に伸びていると説明。また、予約の方法については、高齢者になればなるほど電話予約の利用が多い状況であるが、アプリ予約についても少しずつ割合が増えてきていると説明。現在の乗合率については、29.9%となっており、3 回に 1 回は乗合になっている状況であると説明。1 か月前に比べると 7 ポイント上昇している。平日の時間帯別の利用者数については、8 時台が一番多く、午後 2 時くらいまでは高水準で推移しています。年代別に見ても、70 代、80 代の方が非常に多い状況。20 歳未満の方についても学校の通学と下校に利用している状況が見受けられます。乗降場所については、茅野駅と中央病院が突出して多い状況となっていると説明。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここで、運行支援をしている株式会社地域総合計画から、検証結果及び今後の見通し等ご意見ををお願いします。</p>
<p>株式会社地域総合計画担当者</p>	<p>前回お話しさせていただいた今後の課題として 3 点ほどお話しさせていただきました。</p> <p>1 点目はこれまでバスを利用してきた方の「のらざあ」への転換の促進、2 点目は持続可能な体系に向けての収支の改善、3 点目は効率的な輸送に向けた取り組みについてでございます。今回は、それを踏まえて利用状況について若干補足をさせていただきます。</p> <p>まず、1 点目ののらざあ（手段）への転換、2 点目の収支の改善に係わる利用者についてですが、これまでのバスの利用状況を見ても月別の変動、月ごとの利用者数の変化というものがあります。先ほど事務局からも 12 月は若干利用者が減少したとのお話しがありましたが、これまでのバスの利用状況を過去 2 年間の統計で見ますと、11 月に比べ 12 月は利用者が 5～7%減少、1 月は 20%減少という状況でした。</p>

一方、「のらざあ」の実績を見ますと11月に比べ12月は3%減にとどまっています。さらに、1月は期間が短いですが10%減という状況でバスの状況から考えると比較的順調ではないかと考えております。また、利用者登録につきましても、先ほどの説明どおり2か月間で1000人増加ということですので、のらざあ(手段)への転換、収支の改善に係わる利用者ということでは順調と考えております。

ただし、これまでのような周知・広報活動はこれからも必要であるとともに、利用者からの口コミが今後は重要になると思います。委員の皆さんもことあるごとに、周りの方にお話しいただければ利用促進につながると思いますのでよろしくお願いいたします。

3点目の効率的な輸送に向けた取り組みに向けては、乗合率を高めることが重要というお話をさせていただきました。この状況につきましても、12月以降においては約30%ということで、前回報告から7ポイント上昇しています。この点についても一定の評価はできるものと考えております。これについては、システムの迂回率に関わるパラメータの変更の効果と思いますが、これを無理に高めようとすると、迂回に対する利用者の不満などが出てくる可能性もあります。そのため、今後も迂回に関するパラメータ等の変更というものについては、改善・検証ということを続け、茅野市にあったパラメータを構築し、利用者、運行事業者相互に望ましい形での乗合率を設定できればと思っております。

最後に、バス路線を廃止し、本格的な運行開始時期は10月からですが、当時は白樺湖線などの既に廃止した路線バスも運行しており、本格的には10月下旬からのらざあの本格運行がスタートしたと考えた場合、11月から1月末で3か月経過という認識であり、今後更なる分析を加えていきたいと考えております。

そうしたことから、委員の方も、注視すべき視点などのご意見・ご要望がございましたら、事務局にお申し出頂ければと思いますのでよろしくお願いいたします。

会長

ご質問があればお願いします。

全委員

特になし。

会長

次に②別荘地・観光地の公共交通について、説明をお願いします。

本日は、「別荘地・観光地の公共交通を考える部会」両角明部会長及び朝倉祐一副部会長から、別荘地・観光地それぞれの立場から、ご説明をお願いします。

委員

別荘地・観光地の公共交通を考える会が今年の4月に立ち上げました。当初、別荘地と観光地と一緒に会議を行いました。しかし、状況がそれぞれ異なることから、別荘地と観光地を分けて検討を重ねてまいりました。私の方からは別荘地の観点からご報告をさせていただきます。まず、茅野市内には大小含めて20弱の別荘地がございます。その中でも、10年以上前から連携している7社がございます。鹿島リゾート、三井の森、アルピコ、東急、緑の村、車山、蓼科ビレッジ、でございます。その中から人を出していただき協議を進めてまいりました。これまで検証してきた中で、最初に交通を考える中で、まず、のらざあのエリア拡大や別荘

市内のみのもので、のらぎあを運用を要望したりしました。実質的に困難であるという結論に至り、それに代わるものとして、協議・検討を進めてまいりました。これまでの検討の中で、自家用有償旅客運送については、組織の立ち上げ、条件、認可等、実施になるまでの道のりが大変であり、一旦、断念した経過がございました。それに代わるものとして、道路運送法上の許可・登録を要しない運送があるということで、その内容について勉強してまいりました。組織や要綱など、整備は必要となりますが、ボランティア等を活用していく中で比較的容易に運行を行っていただけるのではないかと決まりました。別荘地の運行単体ではなく、のらぎあの有効活用と連携を行うことで、別荘地の交通の利便性を向上させるために検討を続けているところでございます。今検討している7社の中では、一斉にやることは難しいと考えております。それぞれの別荘地の中で考えていこうということになりました。今後は、市内の交通事業者との協議を行っていくと同時に、全国移動ネットサービスの講習や勉強会に参加したいと考えています。加えて、先進地の視察に行きたいと思っております。具体的には、須坂市に今月27日に行ってくる予定です。そうした中で実証運行を具体化していく中で調整をしていきたいと思っております。冒頭で申し上げたとおり、大小20弱の別荘地の考え方も見ながら調整していきたいと思っております。別紙2の資料についても三井の森の山田委員が中心に作っていただきましたのでご確認いただければと思います。

委員

ビーナスラインの協会長もやっている中で、副部会長として会議に参加しております。そうしたことから観光地についてお話をさせていただきます。まず、観光地については自家用車で訪れる方が大半を占めております。その中でこれからの観光地を見ていく中で、バスの利便性が強いところが観光地として必要なのだと思っております。まず、ハイランドフリーシャトルの実証運行を昨年9月から11月頃に週末の土日祝日に行いました。三つの輪をもって構成しました。車山白樺湖の路線、白樺湖から蓼科湖を結ぶ路線、蓼科から御射鹿池の方まで結ぶ路線の3つの路線で行いました。概ね予想よりも好評でございました。アンケートについても行った結果、大変期待しているということでありました。一方でこの事業については急遽行った経過がございましたので、告知の方法や周知活動についてももう少し考えなくてはいけないと思っておりました。来年度も同様に実行性の高い実証実験を行っていただければと考えています。今後の見通しについては、バスの運行を行うことで、お客様へのおもてなしをもっとご案内できれば、車を置いて、バスでゆっくり楽しんでもらえると思っております。もう一つは、茅野駅の東口を中心に、ホテルや旅館が所有する送迎バスに一般の人や途中で乗り降りが可能な方を同乗されることで移動の縦軸を作っていただければと考えております。現在、こうした取り組みについて蓼科旅館組合に投げかけているところです。費用負担や保険の問題等課題も多いですが、きちんと議論を進めていきたいと思っております。ここからは私見ですが、観光地にお住まいの方も増えてきています。観光地に住んでいる住民の方の足の確保もお願いしたいと思っております。また、八ヶ岳の登山者に向けた、駅から登山口までの移動の手段が必要であると思っております。これからもよろしくお願ひいたします。

委員	<p>茅野 DMO からハイランドフリーシャトルについてご報告させていただきます。当市の主要観光地と別荘地を繋ぐ路線としてハイランドフリーシャトルを 9 月の 3 日から 11 月 27 日の土日祝日に限り、31 日間実施いたしました。当該事業は全額国費で行いました。車山白樺湖コース、白樺湖蓼科コース、チェルト蓼科コースの 3 つの路線で運行を行いました。また、のらざあとの接点としてバラクラ、三井の森とチェルトの管理事務所を乗降場所に設定いたしました。</p> <p>ハイランドフリーシャトルの利用者数は、合計で 2107 名となります。内訳としては、車山白樺ルートが 285 人、白樺湖蓼科ルートが 1313 人、チェルト蓼科ルートが 509 人という状況でした。</p> <p>そのうち、139 名の方から QR コードにより回答をいただきました。年齢別にみると 60 代が 29%、50 代が 19%、70 代が 15%という状況でした。1 番多かった利用者層は県外の観光客で全体の 47%、その次に別荘市民の方で 35%、茅野市民が 15%でございました。9 月当初から 10 月までは別荘市民の方の利用が 50%を超えておりました。11 月からは県外の別荘客の方の利用が増え、周知や告知ができてきたという状況でございます。運行事業者またはディベロッパーによる周知も非常に効果的であったと思います。県外の 70 代の方からはドライバーの方も親切に観光案内等もしていただきましたという声をいただいております。それから 60 代の別荘市民の方からは友達と昼食や温泉に入ることができました。とてもゆったりとした気分で過ごすことができました。大変よいシャトルバスであったというご意見をいただきました。要望としては、平日の運行もお願いしたいということでございました。</p>
会長	ご質問があればお願いします。
全委員	特になし。
会長	<p>次に、(2) 通学通勤バスの運行について、</p> <p>①LPWA を活用した車両位置表示の実証実験について、説明をお願いします。本日は、公立諏訪東京理科大学地域連携研究開発機構 渡辺毅特任准教授から説明をいただきます。</p>
公立諏訪東京理科大学担当特任准教授	<p>別紙 3 に基づき説明。バスの位置が画面に表示されている状況を説明。LPWA のこれまでの取り組みに加え、実証実験の目的、期待される効果について説明。省電力で位置情報を提供、収集することができると説明。地元企業での開発した技術であるため、安価にまた、ユーザーからの声を聴く中で、きめ細かく改良等も行うことができるため、非常に利便性があると説明。また、今後は、車両の遅れ等を利用者に案内・表示することで利用者の不安の解消に努めていきたいと説明した。</p>
会長	ご質問があればお願いします。
全委員	特になし。
会長	次に、②通学通勤バスの運行状況について、事務局から説明をお願いします。

事務局	別紙 4 に基づき説明。利用者についても非常に多くの方が利用していると説明。11 月 12 月の利用者について説明。12 月については、学校が休みの時期ということで少し利用者が減っている状況です。
会長	ご質問があればお願いします。
全委員	特になし。
会長	ありがとうございます。
会長	次に、(3) 高齢者割引の年齢設定及び中学生割引について事務局から報告をお願いします
事務局	資料 1 の 2 ページ目に記載されている内容に基づき説明。これまでの路線バスの高齢者割引については、65 歳以上としており、現行の 75 歳以上から 65 歳以上に引き下げたいと説明。また、中学生についても大人料金を設定している中で、下校時の利用や塾の送迎等に利用することも多く想定されますので、現行の小学生と同様に大人運賃の半額としたいということで了承をいただきました。その後、法定協の中で、協議をした中で書面にて了承をいただきました。このあと、運輸局の方へ手続きを行い、年度内には実現していきたいと思えます。
会長	ご質問があればお願いします。
全委員	特になし。
会長	4 その他 事務局から連絡事項等があればお願いします。
事務局	次回の検討会議でございますが、年度内に 1 回から 2 回開催する方向で調整しています。ご予定をお願いいたします。
副会長	皆様お疲れ様でした。様々な方から状況の報告をしていただきました。誠にありがとうございます。これからの移動の未来を想像することができて、非常に楽しい気持ちで会議に参加させていただきました。福祉 21 茅野では、特に「のらぎあ」の利用に関する障害者の方のアンケートを行いました。これまで、路線バスを使いながら通所に通っていた方がスムーズに移行し、引き続きのらぎあを利用している方、残念ながらうまく使えず家族が送迎を始めた方などの意見を聞くことができましたし、実際の声としても把握しています。私達としては、これから「のらぎあ」をうまく利用できる人を増やしていきたいと考えており、それにより全ての市民の足といえるのではないかと考えております。こうした意見や要望については、福祉 21 茅野からも引き続き提案させていただいたりしていきたいと考えております。登録者については、茅野市民全体の 10%程度となっておりますので、今後、より身近な交通になるよう皆さんと一緒に考えていきたいと思えますのでよろしくをお願いいたします。

本日はお疲れさまでした。ありがとうございました。

以上